

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：24402  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2009 年 ～ 2011 年  
 課題番号：21560668  
 研究課題名（和文） 歴史的都心市街地において近代以降に目指された景観像とその実現手法に関する研究  
 研究課題名（英文） A study on cityscape concept and way of implementation after modern age at historic city center.  
 研究代表者  
 嘉名 光市（KANA KOICHI）  
 大阪市立大学・大学院工学研究科・准教授  
 研究者番号：70381978

研究成果の概要（和文）：本研究は、歴史的な街区構成をもちながら経済、社会、文化など多方面で大きな役割を担っている都心市街地大阪を対象として、その歴史的発展経過を踏まえながら時代毎に目指そうとした景観像を明らかにし、同時に模索された実現手法としての整備方策、誘導方策等について研究を行った。また、都市再生を念頭に置きながらその景観特性を踏まえつつ、今後の都心の景観像のあり方に対応していくための整備方策について研究を行った。

研究成果の概要（英文）：This study was to clarify cityscape concept by major epoch at Osaka’s historic city center, that plays an important role in many fields after modern age. This study performed to make clear planning history of major project, and was carried out way of implementation. Based on the above this study showed a strategy for urban regeneration for future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 ・ 建築史・意匠

キーワード：都市史、歴史的都心市街地

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国をはじめとする先進諸国では都市再生に向けた様々な取り組みを進めている。こうした背景には、国際競争力の激化、産業構造の変化、少子高齢化など「都市の時代」といわれる 21 世紀の経済社会情勢の大きな変化に対し、都市がどのように対応すべきかという問題が起因している。また、東京、大阪など我が国の多くの大都市都心の発展経緯は、近世以前の歴史的市街地をもとに、近代以降の都市の急速な発展、拡大のなか、

短期間かつ効率的に新たな都市基盤を「挿入・改造する」ことによってその空間整備が図られてきた。こうした急速な都市機能の充足、基盤整備が求められた社会的要請のもと、我が国における都心市街地はその位置づけ、機能、空間のあり方などについて計画論的な立場からその位置づけがあまり変わることなく、経済活動の中心としてその活力を維持してきた。しかし、近年の都心市街地における土地利用の再編、都心居住の進展、国際レベルで展開する産業の再配置等の影響から、

都心活力の衰弱が問題となっており、土地利用においても混乱が生じていることから、今後の都市のあり方を模索し、改めて都心の位置づけや都心計画論のなかでその景観のあり方を研究する必要性が高まっている。

こうした歴史的都心市街地では急速に発展、拡大する都市圏において経済社会文化面での中心的機能を担う必要があったため、新たな機能の導入にあたっては、例えば、河川・運河などを埋め立てて道路を通し、上空空間に高速道路をのばすなどの都市空間の様々な改造でしのいできた。あるいは、既存の都市に新たに都市計画規制を導入することで対応してきた。その結果、いわゆるかつての明確な都市空間のアイデンティティが損なわれ、水辺や歴史的街区構成、歴史的建築物など多様な要素を備えているものの、それらが有効に活用されず、土地利用面、空間面、景観面などで大きな変化が生じている。近年、こうした都心市街地では、既存産業の衰退による活力低下や、土地利用の再編の一環による超高層ビルの出現など空間的にも混乱が生じている。こうしたなか、都市再生特別措置法の成立をはじめとする都市再生の取り組みが注目され、都市再生特別地区に代表される容積率緩和などによって、その活力を取り戻す取り組みが進んでいる。

そこで、今後の歴史的街区構成をもつ都心市街地の再生を展望するには、都市再生の潮流にみられる規制緩和を主体とする機能更新、活性化と、その歴史的な発展経緯に深く関わりをもつ空間構造や資源を生かした保全・誘導方策をバランスさせながら再生していく視点が欠かせない。

## 2. 研究の目的

本研究は、歴史的な街区構成をもちながら経済、社会、文化など多方面で大きな役割を担っている都心市街地大阪を対象として、歴史資料、公文書の調査、論考などの議論の経過、関係者へのヒアリングなどによりその歴史的発展経過を踏まえながら時代毎に目指そうとした景観像を明らかにするとともに、同時に模索された実現手法としての整備方策、誘導方策等について研究をおこなう。また、現状の歴史的街区構成をもつ都心市街地の有する空間構造や水辺、街路景観などの資源およびその保全・活用の状況を把握したうえで、都市再生を念頭に置きながらその景観特性を踏まえつつ、今後の都心の景観像のあり方に対応していくための整備方策について研究を行う。また、そのために歴史的街区をもつ都心市街地であり、近代期には御堂筋など街路美観の形成、水辺沿いで水都美観形成、大阪駅前など拠点となる場所での美観形成といった取り組みが行われ、戦後にはまちなみ美観誘導や、建築美観誘導など特徴的

な施策が展開され、近年では水都再生の立場から景観形成に取り組む大阪都心部を中心に研究を行い、その空間再整備モデルの構築など計画に向けた具体的方法論を展望する。

## 3. 研究の方法

本研究は、歴史的な街区構成をもちながら経済、社会、文化など多方面で大きな役割を担っている都心市街地大阪を対象として、歴史資料、公文書の調査、論考などの議論の経過、関係者へのヒアリングなどによりその歴史的発展経過を踏まえながら時代毎に目指そうとした景観像を明らかにするとともに、同時に模索された実現手法としての整備方策、誘導方策等について研究をおこなうものである。

(1) 街路：御堂筋の目指した景観像とその実現手法について（戦前・戦後）

当時の街路景観に関わる論考とその論点、について調査を行い、計画検討段階での景観形成に関わる議論およびその経過などを把握する。

(2) 街区：船場の目指した景観像とその実現手法について（戦前・戦後）

当時の街区のあり方とその景観形成に関わる論考とその論点を把握するとともに、計画検討段階での景観形成に関わる議論なども把握する。

(3) 駅前拠点：大阪駅前の目指した景観像とその実現手法について（戦前・戦後）

当時の駅前拠点整備における景観形成に関わる論考とその論点を明らかにし、大阪駅前計画について、計画検討段階での景観形成に関わる議論を把握する。

(4) 水辺空間：水都大阪の目指した景観像とその実現手法について（戦前・戦後）

当時の水辺における景観形成に関わる論考とその論点、水都に関わる各種取り組みについて把握し、計画検討段階での景観形成に関わる議論およびその経過を明らかにする。

(5) 各種市街地整備の総体：（戦前・戦後）

当時の都市格に関わる議論とその論点や景観形成に関わる議論について明らかにする。

(6) 近年の都市再生の取り組みと歴史的市街地としての特性を生かした景観像

大阪での都市再生の取り組みの現状を踏まえ、都市再生と歴史的市街地としての特性を生かした景観像との関係性、論点について把握し、近年の土地利用、機能更新にともなう景観への影響に関わる議論を確認しつつ、歴史的市街地としての特性を生かした景観像のあり方とその実現手法を展望する。

## 4. 研究成果

(1) 街路：御堂筋の目指した景観像とその実現手法について（戦前・戦後）

戦前については、御堂筋計画の経緯、計画検討段階での景観形成に関わる議論、超過収用による建築敷地造成と美観地区の導入に関する議論の経過などを把握した。

戦後については、用途容積制導入時、戦後美観地区導入検討時での街路景観形成に関わる議論および検討経過、百尺規制緩和における街路景観形成に関わる議論および検討経過、都市再生特別地区の導入と街路景観形成に関わる議論および検討経過を把握した。

表-1 御堂筋に関する一連の経過

年	御堂筋に関わるできごと
1887年 (M20)	大阪市区改正方案取調委員会「大阪市区道路改正案」(幅員約27m)
1899年 (M32)	山口半六博士「大阪市新設市街設計」
1918年 (T7)	都市改良計画調査会「大阪市街改良法案」(幅員約33m)
1919年 (T8)	都市計画法、市街地建築物法 公布 大阪市区改正設計(幅員24間:幅員約44m)
1920年 (T9)	<都市計画法施行>
1920年 (T9)	<市街地建築物法施行(当初6大市適用)>
1921年 (T10)	第1次大阪都市計画事業(内閣認可)
1923年 (T12)	関一著作「住宅問題と都市計画」発行(8月5日) <関東大震災(9月1日)(M7.9)>
1926年 (S1)	御堂筋着工(梅田阪急前から)
1928年 (S3)	総合大阪都市計画決定 大阪市区改正設計の変更内閣認可
1929年 (S4)	高速交通機関(地下鉄)事業認可
1930年 (S5)	地下鉄着工
1933年 (S8)	地下鉄1号線(梅田-心斎橋間約3.1km)開通
1934年 (S9)	大阪都市計画・美観地区(決定内閣認可・施行)
1935年 (S10)	地下鉄1号線(心斎橋-難波間約0.9km)開通
1937年 (S12)	御堂筋竣工(5月11日)(工期約11年7ヶ月)
1950年 (S25)	<建築基準法公布>
1968年 (S43)	<都市計画法公布>
1969年 (S44)	容積地区指定による「絶対高さ制限」廃止 御堂筋の景観保持に関する建築指導方針 (淀屋橋一本町間:大阪市の運用で31m規制を継続)
1970年 (S45)	南行一方通行を実施
1970年 (S45)	新御堂筋が梅新南交差点に取り付く
1971年 (S46)	バス優先レーン実施
1982年 (S57)	御堂筋プロムナード着工 建築美観誘導制度
1983年 (S58)	御堂筋プロムナード竣工
1983年 (S58)	御堂筋パレード始まる
1987年 (S62)	淀屋橋、大江橋の高欄、バルコニーの復元 (御堂筋完成50周年記念事業) 屋外広告物に対するガイドプラン
1989年 (H1)	イチョウのライトアップ (市制100周年記念関連事業)
1989年 (H1)	御堂筋パークアベニュー竣工
1995年 (H7)	御堂筋沿道建築物のまちなみ誘導に関する指導要綱 (淀屋橋一本町間:高さ31mから50mに緩和)
2004年 (H16)	都市再生特別地区(淀屋橋地区)
2007年 (H19)	御堂筋地区 地区計画 都市再生特別地区(本町三丁目南地区)

(2) 街区：船場の目指した景観像とその実現手法について(戦前・戦後)

戦前については、当時の街区の近代化とその景観形成に関わる論考とその論点、船場への建築規制導入と歩行者空間の整備について計画検討段階での景観形成に関わる議論を把握した。

築港深江線沿道再開発計画および船場センタービルに関する一連の検討においては、歴史的市街地を近代化するための再開発という位置づけの一方で、既存の市街地との融和、接続も重要な視点となっていたことが明らかとなった。

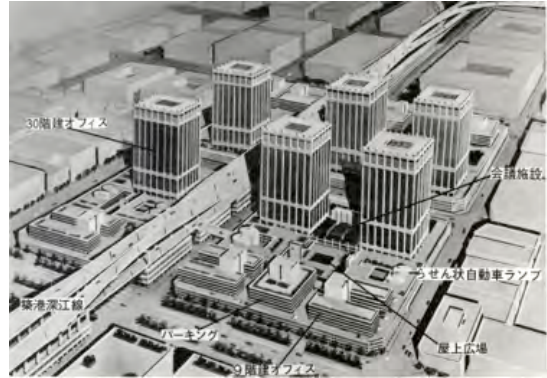


図-1 築港深江線沿道再開発計画の一例

(3) 駅前拠点：大阪駅前の目指した景観像とその実現手法について(戦前・戦後)

戦前については、当時の駅前拠点整備における景観形成に関わる論考とその論点、大阪駅前計画について、計画検討段階での景観形成に関わる議論を把握した。また、超過収用による建築敷地造成と美観地区の導入に関する議論の経過についても確認した。



図-2 大阪駅前広場設計図：大阪市(1927)

戦後については、戦後復興時での大阪駅前の景観に関わる論考とその論点、大阪駅前の景観形成に関わる議論および検討経過、大阪駅前市街地改造事業における景観形成に関わる議論および検討経過について把握した。

図-3 東畑謙三氏による当初計画(戦後)



(4) 水辺空間：水都大阪の目指した景観像とその実現手法について(戦前・戦後)



戦前については、当時の水辺における景観形成に関わる論考とその論点、水都に関わる各種取り組み、計画検討段階での景観形成に関わる議論、橋梁整備の検討と水辺での建築美観誘導に関する議論の経過を把握した。

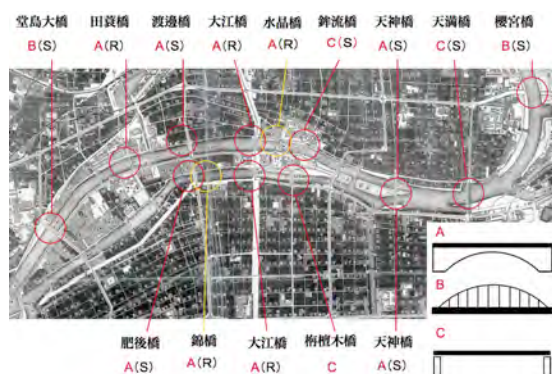


図-4 中之島橋梁の構造形式（戦前）

戦後については、戦後復興時での水辺の景観に関わる論考とその論点、水都再生に関する取り組みと景観形成に関わる議論および検討経過、水辺での建築美観誘導に関する取り組みと景観形成に関わる議論および検討経過について把握した。



写真-1 近年の大阪の水辺整備の状況例

(5) 各種市街地整備の総体：(戦前・戦後) 戦前については、美観に着眼した事業を通じた市街地像、戦後については都市イメージの抽出を行った。

(6) 近年の都市再生の取り組みと歴史的市街地としての特性を生かした景観像

戦前・戦後での分野での景観像、実現手法に関わる研究成果を踏まえ、近年の取り組みを把握しつつ、その景観像のあり方について展望した。特に各年代毎に特色ある空間や景観の積層を活かして、その歴史的蓄積をアイデンティティとして表現する柔軟な誘導手法が望まれると結論づけている。



図-5 近年の大阪都心のイメージマップ

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

(1) 嘉名光市, 増井徹: 船場センタービル建設に至る経緯とその計画思想に関する研究—基本構想(案)・実施計画(案)の分析を通じて, 日本都市計画学会都市計画論文集, 46-3, pp685-690, 2011年, 査読有

(2) 高木悠里・嘉名光市・佐久間康富: Space Syntax を用いた街路パターン分析による路地を活かした密集市街地整備手法に関する研究—大阪市密集住宅市街地「優先地区」を対象として, 日本都市計画学会都市計画論文集, 46-3, pp511-516, 2011年, 査読有

(3) 阿久井康平・嘉名光市: 都市美形成期における大阪中之島橋梁群計画・設計のアイデンティティ—四人のエンジニアの設計思想との照合, 土木学会景観・デザイン研究論文集, 9, pp-61-72, 2010年, 査読有

(4) 嘉名光市: 大阪の歴史的都心に広がる創造的運動エネルギー, 日本建築学会建築雑誌, 125, pp25-26, 2010年, 査読無

(5) 嘉名光市: 普通の市街地の景観をどうするか, 日本建築学会大会(東北)都市計画部門パネルディスカッション資料「景観の計画的リビジョン」, pp27-30, 2009年, 査読無

[学会発表] (計1件)

(1) 嘉名光市: 豊かな都市生活のための都市再生デザイン, 2009 日中科学技術交流大阪シンポジウム「環境保護先進未来都市に向けて」, 2009年11月, 大阪

[図書] (計2件)

(1) 嘉名光市他: URP GCOE DOCUMENT13 船場アートカフェ2, 大阪市立大学都市研究プラザ, 2012年

(2) 嘉名光市他: 季刊まちづくり26 地域づくりの視点から都市計画制度に提案する, 学芸出版社, 2010年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

嘉名 光市 (KANA KOICHI)  
大阪市立大学・大学院工学研究科都市系専  
攻・准教授  
研究者番号：70381978

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし